

【次世代信州農業マーケティングアカデミー③】

商材の魅力を伝える！ コンパクトデジカメ撮影入門講座

2013年10月9日



■ 知っておきたいデジタルカメラの基本

1) デジタルカメラ撮影での一番の注意点

デジタルカメラで一番注意したいのが手ブレです。三脚使用や、タイマー撮影で克服を。

2) デジタルカメラの基本3要素

基本3要素

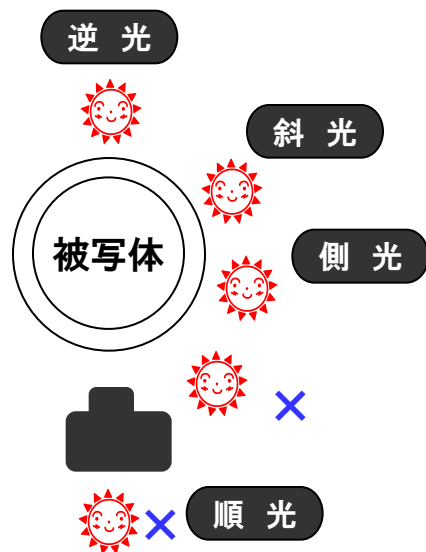
絞り=焦点(focus=F値)
絞りを開けると明るくなり、暗いところでの撮影に適している。
絞りを絞ると暗くなるが、ピントの合う幅が広がる。

シャッタースピード
光を受け取る時間、言い換えれば光の量を調整する。
時間が長くなれば、沢山の光を取り入れられるがブレやすくなる。

ISO(国際標準機構)感度
感度が高いほど暗い所でも撮影できますが、
感度が低いと高画質で、高くなるとノイズが増え画質が低下する。

■ 光の方向を意識して撮影する

デジタルカメラのライティング



△順光



○逆光



×ストロボ発行



○蛍光灯のみで撮影



※商品写真では『ストロボ』は非発光で！

ポイント

基本的に「順光」はNG！被写体に合わせ、「逆光」「斜光」「測光」の使い分けを！
後ろから光をあてることにより、手前に陰影が生じ、シズル感(臨場感)が増します。

※逆光時の注意点

光が強すぎると手前(カメラ側)に影が強くなるので、レフ版(反射板)を使用すると、手前にも間接光があたり、陰影をソフトに出来ます。

■ ホワイトバランスの設定



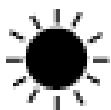
AUTO

AWB

カメラに任せた設定。WBまたはAWBと表記。



太陽



直射日光で撮影する場合。
天候による設定ができる機種もあります。



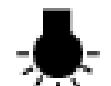
蛍光灯



日陰や直射光の射さない窓際などで撮影する場合。
青みを抑えて撮影。
蛍光灯の種類まで選択できる機種もあります。



電球

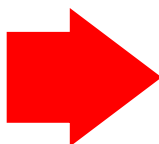


白熱電球を使って撮影する場合。
赤みを押さえて撮影。

■ 露出補正について



△±0



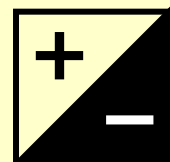
○+1

露出補正

白っぽい被写体を映す場合は、暗く(グレーっぽく)写りがちになります。

『露出補正機能』を使って、多少明るめに撮るのがコツです。

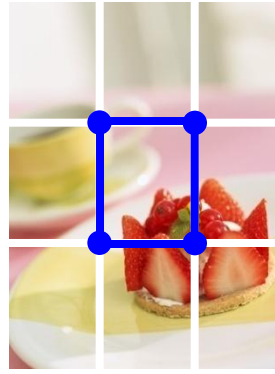
写真が「明るい」場合は、**一側に**。「暗い」場合は、**＋側に**



■ 日の丸構図と三分割法



【日の丸構図】
中央に被写体を持つてくる構図



【三分割法】
タテ軸・ヨコ軸で三分割した
交点に被写体を持つてくる構図

■ マクロモード(料理モード)の活用

素材感を見せたい場合は、『マクロモード』でアップに迫る！ 

マクロモード撮影



■ テレ(T)望遠で撮影を

△ ワイド(W)=広角



○ テレ(T)=望遠



ポイント

ズームの広角で撮影すると上左の写真のように、手前が大きく奥が小さくなり、形が歪んで撮影される。出来れば、上右の写真のように、遠めにカメラを設置し、そこから望遠を使用して撮影しよう。そうすると、手前も奥も歪まない写真になります。

■ 撮影のちょっとしたコツ

1) 料理、素材は、出来たて！切り立て！が一番綺麗



ポイント

肉類・魚介を撮影する際、生っぽさを中和し、鮮度感を表現するには、「ひば」「笹の葉」「大葉」「パセリ」等、緑のものを添えると効果的。お肉に対しては、赤色を強調する働きもある。

2) ビン類の撮影時

文字・ロゴに光が反射しないように
手前からストロボなど光を当てない。
光源の位置は、高めのサイドに設定し、
照明の写り込みに注意。
ビンの両サイドにレフ板をおく。
背景に白い紙・板を置くといい。



3) 袋物・ビニール

**文字・ロゴあたりを平らに伸ばし、
光が反射しないようにする！**
手前からストロボなど光を当てない。
平らな物は、光源を低めに光が反射
しない位置。



memo

■ その他

1)裏技1. 臨場感をUPさせる(生ビール編)

ビールの泡を復活



泡のなくなったビールは見た目にマイナスです。
泡が消えそうになったら塩を小さじ半分くらい加えましょう。
きめ細やかな泡が復活します。

水滴を付着



キリリと冷えたビールを演出するには、
グラスの側面に水滴を付けると効果的。
時間が経つと流れ落ちてしまうので、
グリセリン(薬店で購入できます)と水を1対1の
割合で混ぜた液体を霧吹きで吹き付ければOK。
粘り気があるので水滴が垂れにくくなります。

2)裏技2. 臨場感をUPさせる(お料理編)

具を浮かせる



時間が経つと具が沈んでしまいます。
そんなときに塩を入れて混ぜれば、具が浮いてきます。

具を浮かせる



温かさを感じさせる湯気を表現するには、背景色を暗くすれば、
引き立ちます。
室内の空調でも影響します。
ドライアイス使う方法もあります。

memo